



# 卓 話

## 「LEAD THE WAY」をめざして

第2580地区ガバナー  
小澤 秀瑛氏

今回のクラブ訪問の大きな役目のひとつとして、本年度RI会長ウィリアム・ビル・ボイド氏がかかげた「Lead the way」“率先してやろう”というターゲットの意味と目指していることについて話そうと思います。



「率先してやろう」といっても何を率先するのか、又どういう意味合いなのか、疑問に感じている方もいらっしゃると思います。私は「自分から見本を示し、全てのことに取り組んでいく」という意味に解釈しています。それが即ちロータリーらしい奉仕を目指しているということにつながります。ではロータリーらしい奉仕とは何でしょうか。今年2月、神戸の深沢さんが地区大会でRI会長代理としてお話しした時、簡略にロータリーの奉仕について次のようにおっしゃいました。「煙草の吸い殻を捨てるということが奉仕というならば、それは他の奉仕団体に任せてもいいのではないか。即ち、煙草の吸い殻を捨てない人を育てることがロータリーらしい奉仕ではないだろうか」。この言葉に非常に私は感銘を受けたのです。

昔、中国の白樂天という有名な詩人が、有名な禪の僧である鳥巢道林和尚に仏教の本義を一言で教えてほしいと尋ねました。和尚は「諸悪莫作、衆善奉行、自浄其意、是諸仏教」とだけおっしゃいました。日本語に訳すと「悪い事をしなさんな。良い事をしなさい。清らかな心を保ちなさい。それが即ち仏教である。」ということです。それを聞いた白樂天が慚然として、「そんな事は三つの子供でも知っていることだ、もっと仏教の奥深いところを教えてほしい。」と頼みます。すると再び鳥栖道林和尚は、「確かに三歳の子供でも知っているだろう、しかし現実に大人の日常生活で実行しているかどうかを反省しなさい。」と答えられ、そこで白樂天ははたと膝を打ち和尚の言っている事に合点したという話があります。現実を見た時、大人が吸殻を捨てているのは事実です。三歳の子供でも知っている事を大人の大人が本当に実行しているのでしょうか。そこでロータリーの奉仕はあくまでも奉仕が目的ではなく、

奉仕という手段を使って最終的には人間形成を図ることであると私は思います。1918年、私達の唱えた職業奉仕を中心とするロータリーの精神に反し、金銭を使い、手足を使って奉仕することが奉仕であると離れていった団体があります。こうした論争が始まって100年経ったこの時代、ロータリーらしい奉仕を残し、他の団体でもできる奉仕はそこに任せても良い時期にきているのではないのでしょうか。

では具体的にロータリーでしかできない奉仕とはいったい何でしょうか。4, 5年前からガバナー会の中で検討されてきた、青少年問題を取り上げてお話ししたいと思います。若者に対してよく使われる「今時の若い者は」という言葉は、今から2000年以上前の紀元前から使われてきたという記録があります。その言葉に見られるように、それぞれの時代の大人は次の世代を任せるべく、策を講じて次の青少年を育ててきたという繰り返しが人間の歴史です。そう考えた時、今の子供たちの現状を見ると、それこそロータリーらしい奉仕、ロータリーの精神で、今の若者に対して叱責、叱咤、激励をしなくてはならない時期がきているのではないのでしょうか。そこで4, 5年前にガバナー会で作り上げてきたプランが、皆さんご承知の職場体験のプログラムです。いよいよ本年度から文科省の許可を得て、教育委員会を通じ、学校の理解を得、実践に移す段階に入っています。すでに江戸川区では職場体験が行われ、先日その報告会がありました。多くの中学生が職場を体験することにより、物を作ることの大切さ、厳しさ、苦しさをつくづく実感したそうです。そして一緒に来た先生も、さらに子供たちの親御さん達も触発されていると聞いております。その時の中学生の一人が「大人ってすごい」という感想を述べたそうですが、この一言の裏にあるその子供の感慨や如何なるものでしょうか。またその職業だけでなく、全体的な事を含めて体験させる事が職場体験です。幼児の遊び相手として中学生に幼稚園で職場体験をさせた時、幼児たちが帰った後に生徒達に何をさせれば良いかという指導者の疑問に、私は「庭掃除、窓拭き廊下の掃除をさせなさい。今の子供達は、おそらく窓や庭や廊下はそのままでいても綺麗でいると思っているのだから」と答えました。実際、今の子供達はこのような体験がとても少ないのです。

しかし職場体験を企業に頼んでも、10社中1社が引き受けるというのが現状です。最低5日は職場体験をしなくては効果がないという学校の方針があり、その様に願う所の

ですが、企業としては5日も職場を占領されてしまうと、仕事に差し障りが生じると理由で断られてしまうことが多いようです。そこで一回だけでもロータリーの奉仕の一つとして、率先して中学生に職場体験の場を提供して頂けないかと皆様方をお願いしたいと存じます。

さて、ボイド氏は本年の重点事業として水保全、識字率向上、保健および飢餓、ロータリー家族の4つの問題を挙げています。皆さんはこれらすべてを実際身近に考えられるでしょうか。ご存知のように世界約168ヶ国にロータリーができていますが、ロータリー先進国とロータリー後進国に二極化されているのが現状です。RIとすれば、ロータリー後進国を育てなくてはならないという義務が生じてきます。従ってRIからのクラブリーダーシップのプランを見ても、財団が中心となっており、私達が育ててきた日本独特のロータリーの理念は暫くこちらへ置かざるを得ません。私達は金看板として職業奉仕がありましたが、今はRI全体からみると財団が金看板です。しかし財団の財源を見ると、ビル・ゲイツ氏が作ったような財団には遠く及びません。その様な非営利団体とロータリーは競うべきではないとポール・ハリスも述べていますが、現状を見ると財団中心の状況下にあります。しかし私達は恵まれている人間であることには違いありません。ですから財団から望まれる「年間100ドルを寄付」というよりも、喜んで捨てるという意味で「喜捨」して頂きたいと存じます。

最近アフリカのマイタイさんという方が「もったいない」という言葉を使って日本でも注目されました。私達はここ暫くの間、消費は美德であるという観念で社会を築き上げてきた経過がありますから「もったいない」という言葉を聞くと大変目新しく聞こえるのです。しかしその同義語に子供の頃、親などに言われてきた「ばちがあたる」という言葉があります。いうところの天罰、もしくは社会の仕組みが罰を与えると解釈できます。これはまた我田引水になってしまいますが、お釈迦様が没後3000年後を次のように予言しました。「釈迦没後1000年は正法の時代、次の1000年は像法の時代、その後の1000年は末法の時代になる。」すなわち人間世界の最初の1000年はお釈迦様の整えた法と人間生活がうまくかみあう正法の時代であるとし、次の1000年は、やや衰えるがお釈迦様が祈りを込めた仏像のおかげでどうにか人間生活もうまくいく像法の時代である。そして次の1000年の末法の時代は人間生活が崩れ、あらゆるものに破滅の時が来るという事です。いよいよその末法の時代も3、400年しかないのです。地球の長い歴史を考えると、あと残された時間はほんのわずかなものでしか

ありません。日本人は長い年月、地球の資源や生態と適合してきましたが、文化的、文明的生活を営みはじめた明治時代あたりから、人間の勝手故にそういうものを全て利用してきました。今、地球の生態はどうなっているかを考えた時、末法の時代が足音高くそこまで来ているのではないかと思います。しかしお釈迦様は救世主をつくりました。それが未来を救う神、弥勒菩薩です。お釈迦様は3000年後に弥勒菩薩が現れ、再び人間生活を救うと予言されているのです。私はその弥勒菩薩が私達ロータリアン一人一人であると思います。ロータリアンが叡智をもって弥勒菩薩になった時、まさに地球のおかれている現状が好転するのではないのでしょうか。

昨年「超我の奉仕」という言葉を使いましたが、この言葉は少し難しく、わかりにくいというお話を聞いています。そこで奉仕という言葉、私は慈悲心という言葉で当てはめてみてはと考えます。「慈」という漢字は（茲）という字の下に（心）をつけた漢字です。（茲）は「これ・この」と読みます。「悲」は（非）の下に（心）を書きます。「慈悲」の漢字をくだいて音読みしますと「茲（こ）の心、心に非ず」と読めます。自分の心は自分だけのものではない。人の為、みんなの為の心、これこそが自分の心なのです。自分の心を心とせず、暫く別の所に置いて人の為に尽くそう、これがロータリアンのいう奉仕であると思っています。さらに奉仕する為には“しんせつ”という言葉を使います。普通“しんせつ”という言葉は親切という文字を使い、やさしい気持ちで人助けをすることを考えられています。しかし“しん”には親という字もあれば深という字も、辛という字もあります。ロータリアンのいう“しんせつ”は相手に同情して援助することではなく、相手の立場に立って深く同情し、時には人の我欲や甘えを辛い気持ちで叱咤激励することであると思っています。

ロータリアンはメリットがないとやめていく人がいます。しかしメリットとは何でしょうか。私はロータリーを人生の詩だと思っています。日常生活を散文とするならば、詩はあってもなくても用が足りませんが、自由人がその志を発する大切な場としてロータリーを人生の詩と考えます。一週間に一度の例会に是非とも出席して皆さんと交流し、一週間放電してきた自分の心を充電して、再び厳しい世の中に戻っていく。その場がロータリーの例会です。ですから出席が一番必要な事だと思っています。そして手足に奉仕を、心に親睦を、皮膚感覚としてエリート意識を持ってロータリーライフをお楽しみ下さい。